令和８年　１１月２日

令和８年度「全国学力・学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立国本中学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには，学校の状況や生徒の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があり，その上で，家庭や地域と一体となって生徒を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから，令和８年度「全国学力・学習状況調査」における本校生徒の学力や学習状況の概要について，以下のとおり公表します。

また，調査結果は，学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので，調査結果の分析，指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1　目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から，全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し，教育施策の成果と課題を検証し，その改善を図るとともに，学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況等の改善等に役立てる。さらに，そのような取組を通じて，教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2　調査期日

令和8年4月23日(木)

3　調査対象

小学校　第６学年（国語，算数，児童質問調査）

中学校　第３学年（国語，数学，英語，生徒質問調査）

4　本校の参加状況

①　国語　　１３０人

②　数学　　１３０人

③　英語　　１３１人

5　留意事項

(1)　本調査は，対象となる学年が限られており,実施教科が国語，数学，英語の３教科のみであることや，必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから，本調査の結果については，生徒が身に付けるべき学力の特定の一部分であることに留意することが必要となる。

(2)　本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。

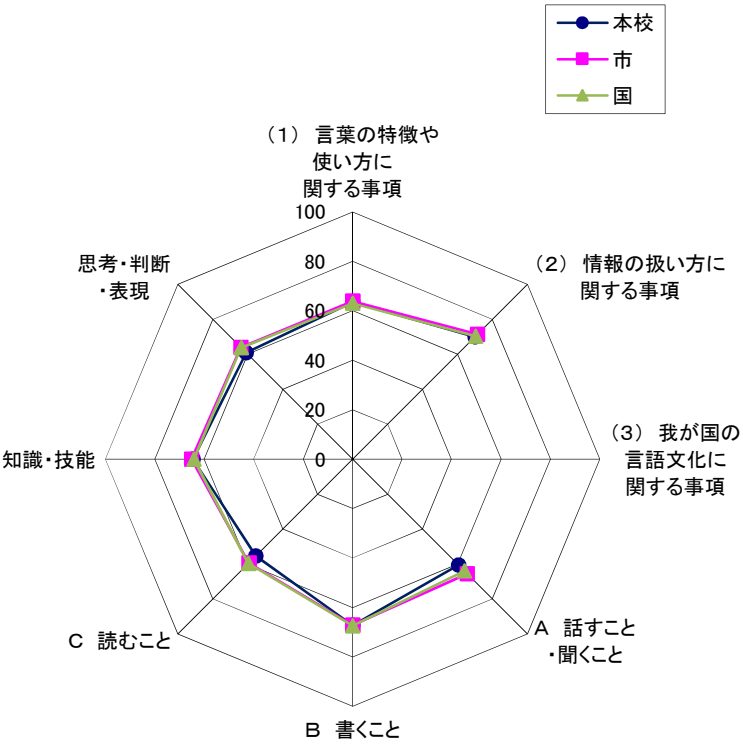
(3)　平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため，「本年度の状況」，「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立国本中学校第３学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の国，市と本校の状況

【国語】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	（1） 言葉の特徴や使い方に関する事項	63.5	63.9	63.0
	（2） 情報の扱い方に関する事項	70.0	71.4	70.4
	（3） 我が国の言語文化に関する事項			
	A 話すこと・聞くこと	60.5	65.5	63.9
	B 書くこと	67.2	67.1	67.4
	C 読むこと	55.4	59.4	59.7
観点	知識・技能	64.6	65.2	64.2
	思考・判断・表現	61.0	64.0	63.7
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

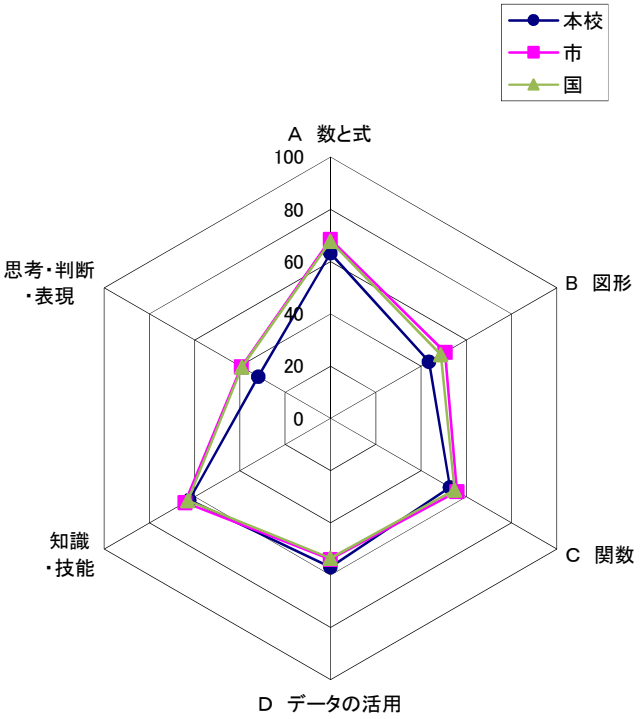
	本年度の状況	今後の指導の重点
○良好な状況が見られるもの	・大問1の(2)「単語の類別(「投げられる」の説明)、大問3の(4)「表現の工夫とその効果(今後、随筆を書くときに生かしたいこと)」は、県・国平均を上回っていた。 ・各大問の最初の方に出てくる問題は無回答率が低い。	・授業で行っている漢字の小テストの実践と、補助教材を使用した学習への励行が効果があったと思われるので継続する。また、日頃から言語を正しく理解し、使えるような学習として、既習事項に繰り返し触れさせたり、視覚的に分かりやすい板書を工夫したりして指導していく。
●課題が見られるもの	・大問1の(3)「単語の活用(ら抜き言葉の選択)」、大問2の「目的や場面に応じた話題の整理(発言に適した説明の選択)」が県・国の平均を下回っていた。特に、大問4「段落構成の把握」については、平均より9ポイントほど下回っていた。 ・記述式の無回答率が、県・国平均を上回っていた。	・他の領域と同様に「記述式」での解答に苦戦している様子が見られる。まずは、無解答率を減らすためにも、条件付きの解答問題に慣れ、正しい解答のパターンを幾つか身に付けられるよう、授業の中で扱うようにする。 ・長文での設問、複数の資料や条件等に不慣れな結果が伺える。今後は一つの問いの中に複数の資料や条件を含めた形式のテスト等を定期的に実施する。

宇都宮市立国本中学校第３学年【数学】分類・区分別正答率

★本年度の国，市と本校の状況

【数学】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	A　数と式	63.2	68.5	67.8
	B　図形	43.5	50.7	48.7
	C　関数	52.8	55.9	54.8
	D　データの活用	56.9	53.9	53.5
観点	知識・技能	62.4	64.3	63.0
	思考・判断・表現	31.9	39.4	39.1
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

	本年度の状況	今後の指導の重点
○良好な状況が見られるもの	・データの活用の領域は正答率が県・市平均を約3%上回った。 ・短答式や選択式の問題では，ほとんどの問題で無回答率が県・市平均よりも低い。	・中学数学の土台となる正負の数の四則計算，文字を使った式の扱い方，1次方程式の徹底的な反復練習を行う。必要に応じて算数で苦手としていた割合などの単元を学びなおす機会をつくる。
●課題が見られるもの	・記述式の問題の正答率が県・市平均よりも低く，図形の証明問題では10%近く低い。 ・また，記述式の問題では無回答率も高く，比例のグラフを利用する方法を記述する問題では無回答率が50%となった。	・問題の内容・状況が理解できているか，何を問われているかを理解できているか，どのように記述するのか理解できているか，どの部分でつまづきがあるのか授業での様子や定期テストなどの結果の分析をし，生徒が何を理解できていないのかを判断し指導に生かしていく。

宇都宮市立国本中学校 第３学年 生徒質問紙

★傾向と今後の指導上の工夫　　○良好な状況が見られるもの　●課題が見られるもの

○質問番号（１２）「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」では、本校の肯定的回答の割合は99.2ポイント（県96.7、全国95.2）と、県、全国の平均を上回った。同質問において「当てはまらない」の回答は0%であった。
○質問番号（１３）「困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか」では、肯定的回答の割合は85.4ポイント（県74.0、全国71.9）と、県、全国の平均を大きく上回った。
○質問番号（９）「先生は、あなたの良いところを認めてくれますか」では、「どちらかといえば、当てはまる」を含めた肯定的回答の割合は、99.2ポイント（県93.3、全国90.9）と、県、全国の平均を大きく上回った。
○質問番号（８）「自分には、よいところがあると思いますか」では、肯定的回答の割合は92.4ポイントで、県（85.3）、全国（84.0）を大きく上回った。

●質問番号（１）「朝食を毎日たべていますか」では、肯定的回答の割合は91.6ポイント（県92.1、全国90.9）と、県の平均をやや下回った。朝食を食べることの重要性を生徒へ指導するとともに、保護者への啓発も行っていく。
●質問番号（２２）「分からないことや詳しく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することはできていますか」では、肯定的回答の割合は、80.9ポイントで、県（79.8）、全国（78.8）と同程度であるが、「できている」が24.4ポイント（県28.7、全国27.4）と、県、全国の平均を下回っている。
●1日当たりの学習時間2時間以上の生徒が24.4ポイントと、県、全国の平均を下回った。この結果を踏まえ、スマートフォンの使用時間が、学習時間を上回らないように生徒へ指導するとともに、保護者への啓発も行っていく。

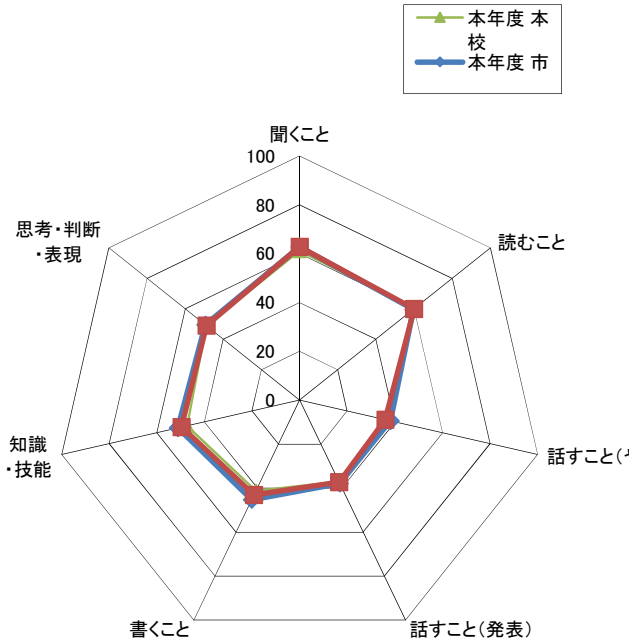
宇都宮市立国本中学校第３学年【英語】分類・区分別正答率

★本年度の国，市と本校の状況

【英語】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	聞くこと	61.1	62.8	62.8
	読むこと	60.5	59.6	60.0
	話すこと(やり取り)	36.6	38.1	36.0
	話すこと(発表)	37.0	37.9	37.2
	書くこと	41.3	45.3	43.1
観点	知識・技能	47.3	51.2	49.6
	思考・判断・表現	48.9	49.5	48.9
	主体的に学習に取り組む態度			

※中学英語の調査は，CBTで実施されている。



★指導の工夫と改善

	本年度の状況	今後の指導の重点
○良好な状況が見られるもの	・読むこと、話すことの領域、および思考・判断・表現の観点では、全国の平均と同程度のスコアとなった。 ・正答率の高かったもののうち、特筆すべきものは、最後の問題で、学校で普段行うことを1つ取り上げ、それについての説明を書く問題で、本校正答率は37．2ポイント、県の正答率を12．0ポイント上回った。 ・無解答率に関しては、聞くこと、読むこと、書くことの領域については、16問中2問が全国ならびに県の値よりもわずかに高いものの、14問が全国、県いずれの無解答率よりも低い。話すことの領域についても、一部無解答率が高いものの、全体的に良好な結果であった。	・読むことについては、英文の読み取り方や英文の語順についての理解が深まっている結果が現れている。今後もこれまでの取組を継続して、英文を読み取る力を育成する。 ・思考・判断・表現の観点では、英語を用いる目的、場面、状況の設定を工夫しながら、単元ごとに課題設定してきたことの一定の成果が見られることから、今後もこれまでの取組を継続していく。 ・話すことについては、聞いて話す、話して書く、のように、課題の見られた領域と組み合せた活動を取り入れ、総合的な成長を促していく。
●課題が見られるもの	・聞くこと、書くことの領域、および知識・技能の観点では、市・全国のいずれも下回る結果となった。 ・特に正答率の低かったものは、リスニングの内容を聞き、その後に示される3枚の絵を体験した順になるように選択する問題で、全国の平均を8．9ポイント下回った。	・リスニングにおいて、英語の音声を聞き、話されている内容を掴むことにまだ十分に慣れていない生徒も一定数いることが明らかとなった。日々の授業の中で、英語を話す、聞く時間を継続的に設定し、英語を聞くこと、話すことに対して、心理的ハードルを下げられるよう工夫を行う。 ・また、知識・技能の観点が市、全国の平均を下回ることから、単語や熟語の知識が定着していないこと、それによって書くことが苦手な生徒が多いことも明らかである。聞くこと、話すことと併せて、書く活動も取り入れ、総合的に改善を図っていく。